



● 第6分科会 ●

多様なプログラムとネットワーク (金沢湯涌 創作の森) 参加者57名

全国における様々なひろばの取り組みと特徴・それに関わる個人・団体のネットワークが持つ可能性をひろばの社会的意義として考える

コーディネーター

志村 恵 (金沢大学文学部 ドイツ文学科 准教授・いしかわ多胎ネット 代表)

事例報告者

岡本 聡子 (NPO法人ふらっとスペース金剛 代表理事) (大阪府)

田中 輝子 (多胎育児サポートネットワーク 代表) (東京都)

ゲストコメンテーター

林 真未 (ファミリーライフエドゥケーター) (東京都)

竹中 大剛 (厚生労働省 雇用均等・児童家庭局育成環境課予算係長) (東京都)



事例報告

○「多胎児と子育て広場の事例」

多胎児サポートネットワーク

田中 輝子

- ・多胎児50人に一人の割合 (1000出産に対し11~12が多胎出産)。多胎の母親の年齢が上昇している (30代後半)
- ・多胎児出産による母親の負担・孤立感・孤独感・体力の低下、経済的負担感
- ・「子育てひろば」運営にかかわるスタッフのアプローチの仕方について
- ・拠点型支援 (ひろばなど) に「出て来られない育児家庭へのアプローチについて
- ・石川・兵庫・岐阜にて多胎育児家庭へのピアサポート事業 (多胎育児経験者が妊娠中から訪問し、母親の心の緩和・喜びの共感・社会へのサ

ポート助言などの傾聴中心支援)を展開した結果、お互いが寄り添うことで子育ての温かさが伝わり、当事者と支援者自身のエンパワーメント (循環型支援) ができてきた

- ・「普遍は個に宿る」〇〇にやさしい社会はみんなにやさしい社会になるのではないかと考える

○「当事者の思いが形になった事例」

NPO法人ふらっとスペース金剛 岡本 聡子

- ・ほっとひろばの概要についての説明 (資料参照)
- ・それぞれの孤立感居場所を求め、子育て中の母親が集まり民家を借りてスタート
- ・ふらっと立ち寄れて対等な関係でいられる場として、月~土 10~16時開放

利用者・スタッフ (当事者) の声をもとに展開。預かり保育、訪問保育、育児ヘルパー。当事者が得意分野の講師となり講座開催。スタッフの子どものために夏休み寺小屋開催 etc...

「しんどい。たすけて…」そんな気持ちをみんなまで話そう。だれでもここにいていい。ありのままでもいい。その人らしい・その子らしい子育て支援を考えていくことでひろばの可能性を感じている

志村：始めたことで課題が見つかり試行錯誤していく中、それをわくわく感 (魅力) と受け止めることで、多様なニーズに応えていけるのではないかと

